

平成 25 年度東京都写真美術館コレクション展  
「写真のエステ — 五つのエレメント」

Collection Exhibition 2013:  
The Aesthetics of Photography-Five Elements

開催期間：2013 年 5 月 11 日（土）—7 月 7 日（日）

主催 東京都 東京都写真美術館  
協賛 凸版印刷株式会社  
会場 東京都写真美術館 3 階展示室



撮影者不詳《女性と少年像》 1840-1859 年  
タゲレオタイプに手彩色

「消滅してしまった存在の写真は、あたかもある星から遅れてやってくる光のように、私に触れにやってくるのだ。」  
ロラン・バリト『明るい部屋』より 花輪光訳 みすず書房刊

## 展覧会概要

---

東京都写真美術館では毎年テーマを設けて、コレクションから選りすぐられた名作をご紹介します。

今年のテーマは「写真のエステ」です。19 世紀の初期写真から現代作品まで、写真の美をめぐって、これから三期にわたってさまざまな表現傾向をご紹介します。一期目は「五つのエレメント」です。

18 世紀ドイツの哲学者バウムガルテンは、「感性学」を意味する「エステティカ」（Aesthetica）という学問を提唱しました。このエステティカは、やがて近代日本に伝来して「美学」と訳されました。現在一般に普及している「エステ」または「エステティック」という和製語は、全身美容術を意味しますが、元々は 18 世紀西洋で生まれた「感性学」から派生しています。「エステ」はたんに人間の身体を美しく変える術だけではありません。自然界の現象や「私」の外にある様々なものを美しく感じ取る術であり、美しいと感じる「私」の心と感性を育む術でもありうるはずです。この展覧会では「写真の美しさはどこにある？」をテーマとして、29,000 点を超える東京都写真美術館の豊富なコレクションの中から、企画者である私が感じている写真の美の在り方を選びとり、五つのエレメントに分けて紹介します。「光」「反映」「表層」「喪失感」「参照」というエレメントを手がかりとして、19 世紀の初期写真から現代写真まで、当館のコレクション作品をたどりながら、美をめぐるとの数々の表現に目を向け、そのたたずまいを味わい、趣きを愛でてください。

「写真」は文字通り「真を写す」と言いますが、写真から「真実」を知ることよりも、「美」の豊かな広がりを感じ取ることが、時には大切なのではないでしょうか。「写真のエステ」をとおして、心の内に今までと異なる感性のチャンネルが開かれてくる機会となれば幸いです。

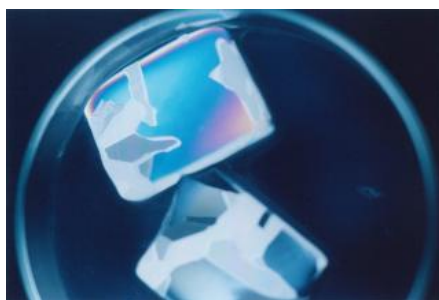
企画・構成＝石田哲朗（東京都写真美術館／学芸員）

## 展示構成

---

本展は次の5つのエレメントをとおして、当館収蔵作品より珠玉の名作をご紹介します。  
出品作品の詳細は、別紙の出品リスト、作家解説、技法解説をごらんください。(出品点数：109 タイトル、168点)

### # 1 光 luminous



左) 佐藤時啓《Breath-graph #155 YUBARI》1992年 ゼラチン・シルバー・プリント  
右) 川内倫子《イリディッセンス》より 2009年 発色現像方式印画

光は始原であり、生命を与えるもの。暗い部屋のなかに外界からの光が注ぎ、像を結ぶことが撮影装置の本質である。

### # 2 反映 reflection



左) 鈴鹿芳康《#672 備頼(沖縄)》1993年 発色現像方式印画  
右) 山脇巖《球体に反射する室内》1932年 ゼラチン・シルバー・プリント

水に映る光の像、ガラスや窓に映る世界。イメージは現と幻の境界にたどよい、どちらともつかない情趣や感覚、豊かな重なりあいを生み出す。

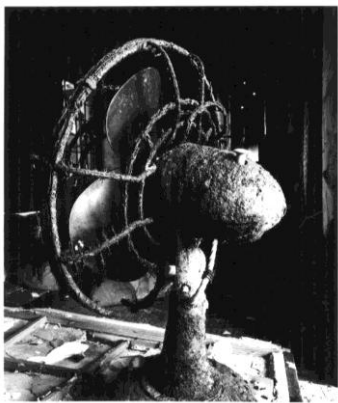
### # 3 表層 surface



左) マン・レイ《理性への回帰》1923年 ゼラチン・シルバー・プリント  
右) スティルフリード&アンデルセン社《題不詳(芸者像)》明治初期 鶏卵紙に手彩色

物質の質感、皮膚感。ものの表面とディテールへのフェティッシュな感覚。そしてモノクロームの印画紙の表層に色彩をのせる「化粧」をほどこすことで、外国人を魅了したエキゾチックな明治期の横浜写真。

## # 4 喪失感 sense of loss



左) 雑賀雄二《軍艦島 棄てられた島の風景》1985年 ゼラチン・シルバー・プリント  
右) クリスチャン・ボルトランスキー《シヤス高等学校》より 1991年 フォトグラビア印刷

廃墟や昔の記念写真。失われた時の痕跡は人の記憶や情動をゆさぶる。人は写真をとおして取り返しのつかない時間の流れに思いをはせる。

## # 5 参照 reference



左) ロベール・ドアノー《ピカソの心》1952年 ゼラチン・シルバー・プリント  
右) 森村泰昌《なにものかへのレクイエム (創造の劇場/ナプロ・ピカソとしての私)》2010年 ゼラチン・シルバー・プリント

ひとつのイメージは他のイメージを源泉として未来に再生される。ひとつのイメージは過去の視覚文化の歴史とつながっている。

### 関連出版物のご案内

---

当館では、本展および今後開催予定の下記2展のコレクション展より、代表的な出品作品と、担当学芸員のテキストを掲載した展覧会図録を出版します。ミュージアムショップ ナディッフ バイテン (03-3280-3279) で販売します。発行：東京都写真美術館 サイズ：A4変形 1,400円(税込)

### 今後開催するコレクション展

---

「写真のエッセー - 写真作品のつくりかた」 2013年7月13日(土) - 9月16日(月・祝)

「写真のエッセー - コスモス 写された自然の形象」(仮称) 2013年9月21日(土) - 11月17日(日)

### 担当学芸員によるフロアレクチャー

---

本展会期中の第2・4金曜日 14:00より、担当学芸員による作品解説を行います。

※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

## 開催概要

---

- 展覧会名 「写真のエステー 五つのエレメント」  
**Collection Exhibition 2013:  
The Aesthetics of Photography-Five Elements**
- 会 期 2013年5月11日(土)―7月7日(日)
- 会 場 東京都写真美術館 3階展示室  
〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内  
ホームページ [www.syabi.com](http://www.syabi.com) 電話 03-3280-0099
- 主催 東京都 東京都写真美術館
- 協賛 凸版印刷株式会社
- 開館時間 10:00～18:00(木・金は20:00まで) ※入館は閉館の30分前まで
- 休館日 毎週月曜日(ただし月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)
- 観覧料 一般 500(400)円/学生 400(320)円/中高生・65歳以上 250(200)  
※( )は20名以上団体料金 ※東京都写真美術館友の会会員、小学生以下および  
障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料
- 交通機関 JR 恵比寿駅東口より徒歩約7分/東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分  
※当館には専用の駐車場がありません。お車でご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください

## お問い合わせ

---

東京都写真美術館 電話 : 03(3280)0034 FAX : 03(3280)0033

企画・展示構成担当 石田哲朗 [tishida@syabi.com](mailto:tishida@syabi.com)

広報担当 久代 明子 [a.kushiro@syabi.com](mailto:a.kushiro@syabi.com) 平澤 綾乃 [a.hirasawa@syabi.com](mailto:a.hirasawa@syabi.com)

前原 貴子 [tmaehara@syabi.com](mailto:tmaehara@syabi.com)